

理想は實現への努力と進む

内務技師 藤 井 眞 透
工學博士

明治の始めに於ては「智識を廣く世界に求め」との詔勅あり、昭和の始めに於ては「摸擬を戒め創造を励め」との詔勅を賜はつた。

時代は進む、空想は理想となり、理想は實現への努力と進む。平凡に見える些細なる工事でも推理と想像の力を働かして之を貴重なる體驗となし得たならば、其經驗から歸納して能く偉大なる科學に導き得るものである。茲に現代技術家の本領と天地とがあるのではないか。

工事畫報が創刊後已に 100 號を出版し我工事技術界の爲に努力した事は、我々多忙にして浩瀚なる雑誌の記事を涉覽する暇なき多くの技術家に對し工事寫眞によりて一見してその大要を察知し得る特徴を發揮して、一般工事技術家の智見を啓發せる事大であつた事を疑はない。

× × ×

十年間の進歩、それは實に偉大なるものであつた。セメントの需要が年額百萬樽から 2,300 萬樽に達した事を以つても知られるが、築造工事の普及よりも、その質に於て特に著しい進歩があつた。工事費の大部を占むる材料の性質に對應する合理的用法の考案に一段の創意を見出したのも著しい進歩である。

× × ×

電車の中で若い青年が腰かけて新聞を讀んでるのを見る。側に立つてゐる僕はその中の「衛生問答欄」を讀んでるかと思つてると彼は赤鉛筆をとり出して線を引きたした所は問答欄の下段の「秋になると木の葉は何故赤くなるか」であつた。彼は葉綠素の減少に興味深く感じたのだ。

若い技術家が鐵道の安全信號塔の設計を命ぜられたとする。青寫眞の前例をあさつて何年前かの設計を踏襲するとせば其所に何等の進歩が見出さ

れない。直に庶務課に機關運轉手の任命の場合その視力の限度を問合せ、一定視力の人が見得る距離から、形狀寸法電燈燭光その照明度を科學に基いて明にし色彩は隣れるものとの補色をとりて創案するとすれば、例へその設計が始め畸形に思はれても此創案を改良して進歩せる考案を立てる事が出来るであらう。

こんな處にも時代の進歩が窺れる。

× × ×

道路工事の十年間は特に目立つ。自動車交通の發達に伴ひ歐米諸國に於ては先づ第一に防塵工法が叫ばれたが、1913年ロンドン會議では已に防塵の目的が達せられて當面の問題たる價値を失つた事を宣言した。本邦では1917年道路法の發令後漸くその緒につき、復興事業に伴ひ都市街路舗裝が普及し、失業事業に伴つて地方道路の改良に力をそゝぐに至り全國の道路は今やその改良を待つてゐる。

× × ×

1924年西班牙セビラの道路會議では、歐洲大戰中米國のコンクリート舗裝が、エノラムス氏等の研究の結果に基き偉大なる發達を遂げた事に世界の關心を集めたが、之をまねた歐洲での道路舗裝は失敗に歸し、1926年伊太利ミラノの道路會議では、此種舗裝が鐵輪の重交通には適當しないと的世界的結論を造つた。従つて之に適する工法の研究を促した結果、1930年の米國ワシントンの道路會議で始めてコンクリート舗裝が如何なる種類の舗裝にも適する事を結議した。

然るに氣象作用の影響の顯著なるに鑑み、此種舗裝が特に之らの影響を受け易き事實を知り、現代に於ては如何にして交通荷重の苛酷なるものに堪へ、併せて氣象作用の影響に對應せしむべきかの問題に到達してゐる。

米國がアスファルトとセメント。英國はタール。佛國及自耳義は石灰石。獨乙は河川上流の山岳地方が小舗石、中流に中舗石、下流地方は石炭工業に依るタール、海岸地方に煉瓦を代表的舗裝としてゐる。各國ともその國土的また地方的に特色を示し、その合理を證

してゐるが、埃及から印度を経て東洋に至る地方は、何等地方的合理や特色を發見し得ない、單に主權國の經濟的支配を受け、主權國の合理をその儘受け入れるの姿を現はして居る。顧みて本邦道路の自然的順調なる發達を祈つて止まない。(了)

手續事務の簡捷を望む

横濱市土木局長 大 岡 大 三

工事畫報に依て與へられた標題の一項及第二項には直に該當せず見當違ひかも知れませんが、感想の一を述べさせて頂きます。一體我國では「お役所仕事は固いけれど遅い」とどうも言はれてゐるやうであります。これには元より種々の理由なり原因なりがあつて、組織や機構の上から已むを得ない事柄かも知れませんが、何處迄でも其の長を保ち何とかして其の短を補ひ、そして少しでも能率を良くしてゆく方途がないものでありましようか。因習の久しき何人も氣が付かず或は氣が付いてても致し方がないとして、弊害といふ程のものでもなくとも、關係が複雑になり多岐に亘るにつれ、別に悪意でもなく、事務がたゞ容易に捗らない。その結果として公私の受くる損害が有形無形に少くなく、延いては國運の消長にも關する場合がないとも斷言されないのであります。總じて理窟の餘り多いところでは、どうも萬事成績が揚らぬやうです。重要度のまるで違ふ枝葉の議論の爲めに、大切な根本の問題が閑却される傾があつては獨りお役所のことばかりも云へませんが、誠に嘆はしい。

時々冷静に反省して自ら立直しをする必要があるのではありますまいか。それは大きいところで近來専ら叫ばれてゐる國策や外交の問題ばかりに止まらない。手近いところに清算すきべものが澤山あるやうです。一例をひきますと一つの事業をするのに其の財源から

計畫に至るまで幾多の調査と研究とを積んで立てられるに係はらず、之が凡ゆる手續を了して實行に移るまでは容易のことではありません。その間多くの時日を空費し關係方面に色々の手敷をかけるが、其處に改善の餘地がないとは決して申せません。

近來に於ける印象の深い帝都復興事業の如きは相當多難な仕事を比較的短期間にやり遂げた者の一つと兎も角も言はれてゐますが、それには矢張り核心になつてゐる最後の目標に達する前、途中の手續其他煩雜なる交渉を能ふ限り急速に運ぶ便宜の方法を第一に講じたことの隠れたる力を見通すわけにまららないのであります。世運の進歩に伴ひ此等の點に關して我國の識者の間に研究さるゝ所あらんことを希望して已みません。(八・四・三〇)

批評を聞き度い

批評のない處には進歩がないと云はれる。然るにわが工事界にはそれが無い。批評はなくても進歩したてはないかと云はれる人もあるかも知れませんが、僕は一つの工事を竣功せしめる毎に、それに對する權威ある批評が聞けたら、どんなに我々を益し、新界の參考になることかを思ふのです。雪隠の蟲も自分の身が臭いとは云はぬ道理で、人間と云ふ奴は得て自惚れ易いものなのですから。將來の工事に對してよき批評の現れることを切望します。(一讀者)